

【方向性4】 誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる ～働きがいも、生きがいも得られるまち～

具体目標	行動	取組例
1. 多様な価値観や文化を大切にする	①あらゆる場面でジェンダー平等を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意思決定の場面では、多様性を確保するためジェンダーバランスに配慮する（クォータ制の導入）</li> <li>●地域、町会、PTA活動、家事・育児・介護などでのジェンダー不平等をなくす</li> <li>・職場での女性管理職登用を推進する</li> </ul>
	②LGBTフレンドリーなまちにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>●LGBTを理解する場や機会を増やす（例：「OUT IN JAPAN」のようなイベントを身近な場所で開催）</li> <li>●同性パートナーシップ制度を浸透させる</li> </ul>
	③外国の文化や生活を理解し、尊重する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●異文化を理解するために、外国出身者と気軽に交流できる機会をつくる（「食文化」を理解する料理教室など）</li> <li>●外国出身者が不便を感じる部分や、金沢のよい部分などを見える化する</li> </ul>
	④障害者フレンドリーなまちにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな障害や、それによる社会的不利があることを知って理解する</li> <li>●障害の有無に関わらず、気軽に話し合ったり、助け合ったりできるまちにする</li> <li>・自分の生活、地域、職場で、何が問題になっているのか、あるいはできることはなにかを自分ごとにして考える</li> </ul>
	⑤異なる価値観や文化を知り、対話する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●異文化、多様な性や家族のあり方、障害の有無、子供・若者・高齢者など、自分以外の価値観を知り理解する</li> <li>●意思決定の場面に、世代その他のバランスの取れた多様性を確保する</li> <li>・小学生などを対象とした多文化共生のプログラムを実施する</li> <li>・多様かつ多世代が交流する場をつくる（こども食堂など）</li> </ul>
2. 誰もが自信と生きがいをもって生活することができる	①いろいろなコミュニティに関わってみる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動やイベントに参加してみる</li> <li>●NPOやプロボノなど、さまざまなコミュニティに所属する</li> <li>・会社以外の場で活躍できる機会をつくる</li> </ul>
	②誰もが自分の人生に自信をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者との対話などを通して、自分の好きなこと・得意なこと気づくことができる機会をつくる</li> <li>●人生におけるライフシフトやタイムマネジメントについて学ぶ</li> <li>・好きなこと・やりたいことに熱中できる環境を、自分自身および、家庭、地域社会、企業などがつくる</li> <li>・自分のスキルと社会のニーズが可視化・マッチングされ、社会貢献活動に取り組みやすくする</li> <li>・クレーム社会を是正する</li> </ul>
	③芸術やスポーツが身近なまちにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元プロスポーツチームを応援する</li> <li>●ミュージアムや音楽会にふらっと出かけてみる</li> <li>●芸術やスポーツに取り組む</li> </ul>
3. 誰もが学びたい時に学べる場がそこら中にある	①多世代がいつでもどこでも学べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館を市民の憩いの場とし、最新機器から、ゆったりと読書でき、対話もできる空間を確保する</li> <li>●生涯にわたって教育と就労を交互に行うリカレント教育を奨励・充実する</li> <li>・大学での社会人教育のプログラムを充実する</li> <li>・現在展開している市民講座やさまざまな学びのプログラムのデータベースを作成し、発信する（職人大学校、ボランティア大学校、高砂大学、公民館など）</li> <li>・企業が社員の学びに対しての環境整備を行う（支援制度など）</li> <li>・e-ラーニングによる生涯学習を受けられる環境の整備を行う（e-ラーニングによる金沢かがやき発信講座の実施）</li> </ul>
	②まち全体を学びの場とし、市民が相互に教え、学びあう	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公民館の活用状況を調査してみる</li> <li>・社会教育として公共の場である公民館や廃校を中心とした多様な学びの居場所をつくる</li> <li>・「IMAGINE KANAZAWA 大学（仮称）」を設立し、市民が相互に学びあえるしくみをつくる</li> </ul>

【方向性4】誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる ～働きがいも、生きがいも得られるまち～

具体目標	行動	取組例
4. 一人ひとりが、何度でもチャレンジし続けることができる	①働きたい意欲のある“ヒト”に合わせた就労を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職場や移動環境をバリアフリーにする</li> <li>●妊娠、出産、病気などでやむを得ず離職した人が、再就職しやすい社会をつくる</li> <li>●ジョブコーチと連携し、障害のある人が円滑に働けるように、支援環境を整える</li> <li>・就労にともなう各種カウンセリングやリハビリテーションを充実する</li> </ul>
	②誰でもいつでもどこでも働くことのできる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレワークやリモートワークを社会全体で推進する （美味しいテレワーク事業：食が魅力的な冬季のテレワーク推進など）</li> <li>・wi-fi環境が整った場所やコワーキングスペースをあちこちにつくる</li> </ul>
	③いろいろな働き方や休み方ができる風土と環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織に属しているかどうか、有利・不利に結び付かない風土をつくる</li> <li>●サバティカル休暇やワーキングホリデー等の制度を浸透させる</li> <li>・先進的な働き方をしている人や企業などの情報を発信する</li> <li>・企業間の交換留学制度やインターンシップ制度をつくる</li> <li>・企業がいろいろな働き方ができる仕組みを用意する</li> <li>・お店の24時間営業を求めない、週休2日を徹底する</li> </ul>